

# 17 飴ちゃんグループ分け

目的：グループ分け・緊張を和らげる・リフレッシュ

時間：5分程度

準備：人数分の飴（1個ずつ包装されたもの）

人数：8～40人程度

場所：教室（机や椅子は、あってもなくても可）

## グループ分けを楽しく

Part 3では「グループ分け」を主なねらいとしたアイスブレイクを紹介していきます。

みなさんご自身が、「グループ分け」されたときのことを思い出してみてください。子どものころのクラスでのグループ分けでは、「好きな子と一緒にグループになれるかな」などと、わくわくしたかもしれません（私など、わけもなく楽しみでした）。大人になってから、研修会など、顔見知りのいない集団でのグループ分けは、ちょっと居心地悪く、場全体をアイスが覆っていたかもしれません。

グループ分けは、アイスブレイクのチャンスです。一工夫するだけで、楽しい時間に早変わりします。

## 好きな物でグループ分け

まず、食べ物を使ってグループ分けするアイスブレイクです。学校で実施するには制限があると思いますが、お楽しみ会や保護者会などでは使えるのではないのでしょうか。

### 「飴ちゃんグループ分け」の進め方

- ①あらかじめ、分けたいグループ数分の種類の飴を、各種類1グルー

このような印をつける手もある



ブの人数分用意しておく。例えば、30人を「6つのグループ」×「5人ずつ」に分けたいときは、6種類の飴を5つずつ用意する。

- ②「はい、みなさん。お疲れの方もいるかと思しますので、ここで飴ちゃんタイムです。いろんな飴がありますので、好きなものを1人1つ、取ってください」と言って、全員に渡るように飴を差し出す。
- ③「どうぞ、食べてもらっていいですが、包み紙を捨てないでくださいね」と注意。
- ④「実は、今食べた飴の種類でグループ分けをしようと思います。『私はレモン味です』『コーヒー味の人、いますか?』などと、それぞれ呼び合って、同じ飴の人で集合してください。同じ飴を選んだとい

うことは、何らかの共通点や縁があるのだと思います」

- ⑤グループで集まったら、簡単に自己紹介などを促して、グループ活動に入っていく。

## 飴の袋に印をつけるという工夫も

欠席などもあり、当日まで人数が確定しないことが多いでしょうから、人数の最大数の飴を用意しておきます。ポイントは、アイスブレイク実施前に、人数をしっかり確認して、人数分の飴を出すことです。人数より多く出してしまうと、グループの構成人数にばらつきが出てしまいます。

飴の袋にマジックで印をつけておいて、それを引いた人がグループのリーダーを務めるという工夫も可能です。

飴を配るのがふさわしくないときは、色紙や色鉛筆などで代用することができます。しかし、やっぱり飴の威力は絶大です。のども潤い、関係も潤い、アイスブレイクの効果大です。

